

生誕100年 国民的に人気を集める日本画家 最大のコレクション

# 長野県 信濃美術館 東山魁夷館

信濃の国は十州に 境連ぬる国にして 聳ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し  
長野師範教諭の浅井冽作詞、北村季晴作曲のこの「信濃の国」は、明治期より長野県民に歌い継がれるふるさとの歌である。「信濃」であり「信州」であるこの地では、県立美術館の名称も長野県信濃美術館であって、その傍らに樹々に囲まれた東山魁夷館が端正で美しい姿を見せている。

**長野県信濃美術館 東山魁夷館**  
 開館時間：9:00～17:00(入館は16:30まで)  
 休館日：毎週水曜日(祝日休日は開館)  
 年末年始(12/29～1/1)  
 交通：JR長野駅からバスで約15分  
 駅前バス乗り場(川中島バス)～「善光寺北」下車  
 上信越自動車道 長野ICから車で約30分  
 URL：http://www.npsam.com/

## 【 作品を育てた故郷 信州 】

私が初めて信州へ旅したのは、今から六十六年前の大正十五年夏のことでした。当時、東京美術学校日本画科の一年生だった私は、友人三人と木曾川沿いに天幕を背負って、十日間の徒歩旅行をし御嶽へ登りました。横浜で生まれ神戸で少年期を過ごした私は、初めて接した山国の自然の厳しさに強い感動を受けると共に、そこに住む素朴な人々の心の温かさに触れることが出来たのです。(中略)この旅はその時は気づきませんでした。私に大きな影響を与えたものであることが、ずっと後になりわかったのです。それ以来、山国へよく旅をするようになり、信濃路の自然を描くことが多くなりました。そして風景画家として一筋の道を歩いてきました。いつの間にか私を重んじてくれました。子供がいませんので今の内に、自家所有の作品などの処置について、真剣に考えねばならない時期になりました。いろいろ考えました。末に、私の作品を育ててくれた故郷とも言える長野県にお願いたいと決心したのです。――



風が流れ 静かな水面にさざなみが立つ ロビーから



絵のような眺めにカメラを構える来館者

平成2年、東山魁夷館の開館にあたって、画伯は図録の冒頭にこの一文を寄せている。画伯の望

みに応えて建てられたのが東山魁夷館である。設計は画伯と交際の深かった建築家、谷口吉郎の子息 吉生が担当した。現在、東山魁夷の名を冠した美術館は他に3つある。「私の戦後の代表作はすべて市川の水で描かれています。」と、画室を構えてから50年という生涯の大半を過ごした自邸の傍らに建てられた千葉県「市川市東山魁夷記念館」、版画を主なコレクションとする坂出市の香川県立「東山魁夷せとうち美術館」、岐阜県中津川市の「東山魁夷心の旅路館」である。しかし画伯が自ら作品を寄贈したこの東山魁夷館が、950点におよぶ最大のコレクションを擁しているのは当然のことだろう。

## 【 清楚で美しい美術館 】

長野市中心街の中央通りは、いまは表参道と呼ばれるようになった。市のシンボル善光寺への参詣道という本来の歴史と文化の道への回帰であって、山門に近づくと



戦後のデビュー作「道」のタペストリー エントランス

キリリと引き締まった表情の東山魁夷館 設計：谷口 吉生

鮮やかな白壁土蔵づくりの商家が立ち並び、まちなみはいかにも門前町らしく美しく整ってきた。善男善女で賑わう善光寺を左に見て、噴水を囲む城山公園の一角に信濃美術館がある。その傍らに東山魁夷館が池の水面に端正な姿を映しだしている。その表情は、画伯と信州との強い心のつながりを象徴するかのよう、キリリと引き締まって見える。モーツァルトの旋律が静かに流れる内部は、画よりも目立たず、作品の縁になる「簡潔な意匠と十分な機能性」という谷口吉生の建築コンセプトによって、無駄がなくすがすがしい。



秋の展示テーマ「あかね色の世界」の代表作「行く秋」1990



画筆 筆洗 など画伯愛用の品も展示

ここには困難な日本画の保存に万全を期するために、年に6回作品の展示替えが行われ、2007年度は「緑響く」「水墨の世界」「青の世界」「あかね色の世界」「白の世界」というように、年によって様々なテーマ設定がなされている。季節ごとに東山芸術を楽しめると評価が高い。平成20年は東山魁夷生誕100年にあたる。それを機として主要作品100点が選定され、東京国立近代美術館と東山魁夷館で特別展が開催されることになった。ふだんは見ることのできない唐招提寺御影堂の障壁画も展示され、ファン必見の機会となるだろう。

## 【 芸術都市「長野」へ 】

長野市は1400年の歴史を持つ善光寺によって仏都として発展を重ね、明治期には紆余曲折を経ながらも県都となった。しかし広大な県域があり、かつて城下町であった松本や上田、飯田などの存在もあって、県庁所在都市としての中心性は決して高いとはいえない。しかしこの東山魁夷館によって「信濃の風土のきらめき」が改めて発信され、成熟社会における都市と文化のあり方を広く問うことができるのではないかと、倉敷の伝統的

なまちなみに大原美術館が組み込まれるように、仏教都市に加えて芸術都市へ……。長野市での東山魁夷館の新たな役割を期待したい。



ピエゾグラフによって再現され通路を飾る「静映」1982

「中国風景」「北欧風景」、そして「京洛四季」などの習作、スケッチ、さらには展覧会への準備作、「唐招提寺御影堂障壁画」の試作などが網羅され、ここでは制作にかかわる全体像が明らかにされている。とくに遺作となった「タペストリー」はこの地の情景が画面に取り入れられ、また「道」のタペストリー



建設当時 斬新さで話題になった信濃美術館 設計：林昌二



信濃美術館 子供対象の楽しい催し「五感でアート展」



宗派成立前に開山 全宗派に門戸を開く 善光寺



白壁に松が映える 善光寺宿坊のまちなみ



ゆるやかな坂の表参道 風格のある土蔵造りの商家